

会議名	令和7年度 つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校に関する説明会
開催日時	令和4年6月30日(木) 午後7時から 8時15分まで
場 所	川島町立つばさ南小学校体育館
参加者	24人(傍聴者含む)
議 題	(1) 令和7年度 つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校に関する説明 (2) 説明に対する質疑
出席者	教育長 中村正宏 教育総務課長 鈴木克久 つばさ南小学校長 山崎清美 学校統合・学校教育指導幹 関口敬氏 学校統合推進室長 坪内嘉夫 事務局職員 指田直輝、柿沼裕美
配布資料	資料 令和7年度つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校
<p>説明会の内容・概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 あいさつ</li> <li>3 出席者紹介</li> <li>4 説明</li> <li>5 説明に対する質疑</li> <li>6 閉会</li> </ol> <p>《教育長あいさつ》省略</p> <p>《資料により説明》省略</p>	

## 《質疑・応答》

質問 三保谷小学校と出丸小学校が統合され、つばさ南小学校が開校になった以降も、三保谷地区の児童は、夏場の猛暑の中、徒歩で通学をしている。つばさ南小学校とつばさ北小学校が統合された際には、希望する者はスクールバスを利用させてもらえないか。

回答 通学方法は、基本的には小学生は徒歩、中学生は自転車通学としています。また、スクールバスの利用については、あくまで現段階での考え方になりますが、小学生のうち遠距離通学者をバスの利用対象者とし、遠距離通学者の基準として、川島中学校を起点に半径2kmを超える地域に住む小学生とする考え方を持っています。

しかし、子どもの健康や成長のため、バスは利用せずに徒歩で通学させたいという保護者の方もおり、通学上の安全確保の観点からすれば、希望する者はバス利用させていただきたいという保護者の方もいます。令和7年度以降のスクールバスの具体的な運行体制については、来年度、小学校統合協議会を立ち上げて、保護者の皆様からの意見、要望になるべく応えられるような形で検討していきます。

質問 学童保護室はどのようになるのか。

回答 川島中学校の敷地内に、小学校1年生から4年生を収容する校舎を増築しますが、中学校校舎も含めて、学童保護室を設けられるか否か今後検討していきます。仮に、学童保育室を設けることが困難な場合は、現在2箇所ある学童保育室までスクールバスを利用して、子どもたちを送ることを検討していきます。

質問 増築する校舎は品質の良いプレハブとのことだが、鉄筋コンクリート造の校舎に建て替えはしないのか。

回答 プレハブであっても工事現場でよく見かける仮設事務所のようなものでなく、外観は鉄筋コンクリート造の建物と遜色ない物であり、機能面においても耐震性はもちろん、防音性、断熱性など全く問題はありません。

建設費の負担は10年間のリース契約で対応するものであり、リース満了後は所有権を町が譲り受けます。そのため、撤去してもそのまま使い続けることもできますが、令和17年度を目途とする小中学校の1校化の検討の中で、どのようにプレハブ校舎を使用するのか検討していくこととなります。

質問 小学校5～6年生が、中学生と同じ校舎に入る計画とのことだが、中学生からいじめられる心配はないか。

回答 小中一貫教育の先進校の様子を伺ったところでは、学校行事など様々な場面において、小・中学生の間に良好な関係性が築かれることによって、一貫教育に取

り組む以前と比較し、中学生が年下の小学生に対し優しく接するなど効果があったと聞いています。また、つばさ南小学校とつばさ北小学校が統合になっても小学校の教員は減らず、むしろ小中一貫教育校となれば、小学校と中学校の教員と一緒にになりますので、子どもたちに対しこれまで以上に、長期の見通しを持った中できめ細やかな指導が可能となります。なお、保健室についても、小・中学生それぞれ設けますので、ご安心いただきたいと思います。

質問 小学校5～6年生の行事はどうなるのか。

回答 小中一貫教育の先進校では、小・中学校合同で運動会を実施していましたが、学校行事は、小学校ならではのもの、中学校ならではのもの、それぞれ特色もあります。そのため、令和7年度の開校に向けて、町ならではの良い行事を計画したいと思います。

質問 小学生のプールはどうなるのか。

回答 中学校のプールの水深は小学生には深いため、一例として、床を嵩上げする方法がありますが、これには危険性もあります。今年から、つばさ南小学校とつばさ北小学校の児童は、南小学校のプールで、民間のスイミングスクールの指導の下、一緒に水泳の授業を受けるようになりましたので、中山小学校あるいは伊草小学校のプールに行き、同様に、民間のスイミングスクールの指導により、他校の友だちと一緒に水泳の授業を受けることも考えられます。また、学校のプールでなく民間のスイミングスクールに直接行って、水泳の授業を受けることも検討したいと思います。

質問 現段階では、スクールバスの利用対象者を、学校を起点に半径2 km以上の地域に住む児童にしているとのことだが、直線距離でなく、実際の通学距離を基にして、バス利用の可否を検討してほしい。

回答 距離だけでなく、できる限りご家庭の事情等まで配慮して、バスの運行体制を検討したいと考えます。

質問 説明資料の図面上には、小学生向けの遊具がないが、遊具は設置しないのか。

回答 資料には記載がありませんが、遊具は設置します。

質問 遊具を設置した場合、中学生の部活動に影響は出ないのか。

回答 現在、グラウンドを利用する部活動は陸上部とサッカー部のみであり、今後、部活動が増える見込みはありませんので、小・中学生間での接触の危険性はないと考えていますが、必要に応じて、フェンスなどの設置により、ゾーンニングを図りたいと考えています。

質問 令和17年度に小・中学校が1校に最終統合した場合、中学校の部活動が増えると期待しているが、実際の見込みはどうか。

回答 今後も少子化は進んでいくため、中学校が統合しても、現在と比較し生徒数が大幅に増えるという見込みはないため、部活動に参加する生徒数も大幅に増えるとは考えておりませんが、川島中学校にしかない部活動、西中学校にしかない部活動、それぞれありますので、部活動の種類は増える可能性はあると見えています。

質問 つばさ南小学校が売却された後は、地域の人たちが集まれる場所が無くなるということか。

回答 現在の旧出丸小学校は、廃校になる際に、地域の皆さんから意見等を伺ったうえで、廃校後の活用方法を考えた結果、避難所の機能を持たせつつ、地域の皆さんが様々な目的で利用できる施設として開放することになったものです。そのため、つばさ南小学校の廃校後の活用方法も、旧出丸小学校の例を参考に、今後、検討していくことになると考えていますが、町の公共施設の個別施設計画においては、財政上の観点から、町の財政負担を軽減するために売却や譲渡を検討することとしており、今後、地域の皆さんの意見を聞きながら検討していきます。

《課長あいさつ》省略

作成者	教育総務課 学校教育グループ 柿沼裕美
-----	---------------------